

# 湖畔の風 元気運ぶ

東日本復興支援サイクリング  
**CYCLE AID**  
**JAPAN 2014 in 郡山**



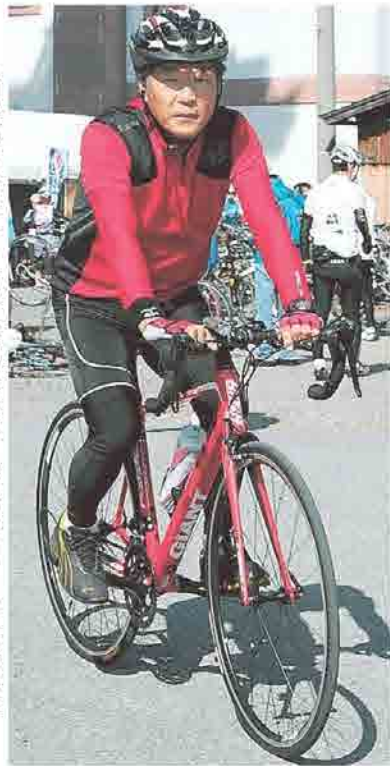
爽やかな秋の風を受けてスタートする参加者

## 自転車 新たな活力

### 避難の苦勞吹き飛ばす

90キロ完走 小高の門馬利典さん 58

爽やかな湖畔の風が、明日への元気を運んできた。十一日、猪苗代湖周辺などで繰り広げられた「サイクルエイド・ジャパン2014 in 郡山 ツール・ド・猪苗代湖」。約千人の自転車ファンは湖水の輝き、色づく木々の美しさを心に刻み快走した。県外からの参加者は住民と触れ合い、福島復興を祈りながらペダルをこいだ。



「自転車が活力をくれる」と語る門馬さん。90キロコースを快走した

「猪苗代湖と磐梯山を一緒に眺めながらのサイクリングは最高だった」。九十キロコースに参加した南相馬市小高区の会社員門馬利典さん(五十八)は完走を果たし、気持ち良さそうに汗を拭いた。自宅は東京電力福島第一原発事故に伴う居住制限区域にあり、市内原町区で避難生活を

送っている。原町区内にある会社までの距離が短くなったため、平成二十四年春に通勤を車から自転車に切り替えた。風を切って走る爽快感が気に入り、次第にのめり込んだ。週末、ロードバイクにまたがり、県道や国道を四時間程度走ることもある。自宅は東日本大震災で半壊した。近所の田んぼで続けてきた週末の農作業はできなくなった。今年二月、市内の仮設住宅で暮らしていた父親が病気で亡くなった。生活はすっかり変わった。ふさぎ込みそうになった自分に、自転車が新たな活力を与えてくれた。「ペダルをこぐ時間はつらいことを忘れられる」

サイクルエイドには初めて参加した。九十キロのコースは体力的にきつかったが、それだけ達成感も大きかった。「福島を応援してくれる全国の自転車ファンと一緒に走り、元気をもらった。これからも前に向かってしっかり生きていく」。年内には、原町区内に建てている新居での生活が始まる。

「自転車が活力をくれる」と語る門馬さん。90キロコースを快走した



## 障害乗り越え快走



サイクルエイドには、足の不自由な人も参加し、手でこぐタイプの自転車「ハンドバイク」でサイクリングを楽しんだ。

本宮市の自営業安齋透さん(画)は五十キロコースを完走。「天気が良く自転車からの眺めが最高だった」と笑顔で振り返った。十五年

完走を目指しハンドバイクをこぐ安齋さん(先頭)

前、溶接の仕事中に高さ約三層の作業場から転落し、車椅子生活になった。当時はマウンテンバイクが趣味だった。約十年前、ハンドバイクに挑戦した。スピード感に引かれ、三年前からレースにも出るようになった。

今大会のコース周辺をマウンテンバイクでよく走っていたという。きつい坂道もあったが、他の参加者と会話し、秋の猪苗代湖の風景を見て疲れは吹き飛んだ。「ハンドバイクは明日への希望。魅力を多くの人に伝えたい」と語った。

る」と約束した。  
群馬県の会社員桑原弘之さん(會)は「福島  
の自然の素晴らしさを  
地元のみんなに伝えた  
い」と声を弾ませた。  
県外からの参加者は  
全体の三分の二の約六  
百五十人に上った。沿  
道から声援を受け、住  
民との交流を楽しん  
だ。

## 本県の魅力実感 今後も支援誓う

### 県外からの参加者

県外からの参加者  
は、今後も本県への支  
援を続けると誓った。

約十年前まで郡山市  
内に勤務していた神奈  
川県の会社員古屋靖行  
さん(會)は仲間四人と

走った。猪苗代湖を一  
周してみたいという夢  
が実現し、「福島のリ  
興を応援する意味もあ  
って参加した。これか  
らも機会を見つけて訪  
れたい」と話した。

### 東京都の会社員栗原

裕之さん(會)は妻と一  
緒に泊まり掛けて来県  
した。買い物をして、  
できるだけ県内でお金  
を使うつもりだとい  
う。「息の長い支援を  
する。お土産を友人ら  
に配って福島をPRす

## 激励メッセージ 掲示板に並ぶ

郡山ユラックス熱海  
には自由にメッセージ  
が書き込める縦一・六  
段、横二・二段の掲示

板が設置され、「福島  
大好き」「がんばれ東  
北」などの言葉が書き  
込まれた。メッセージ



掲示板にメッセージ  
を書き込む小林さん

業小林真利子さん(左)は「たくさん  
の人が応援してく  
れる気持ちがあ  
わり、うれしい」  
と語った。

掲示板は後  
日、福島市の福  
島民報社本社に  
展示される予  
定。

# 各所で水や食べ物 地元住民ボランティア

「サイクルエイド・  
ジャパン2014 in  
郡山ツール・ド・猪苗  
代湖」のコース各所で、  
ボランティアの地元住



参加者に飲料水を提供する古川さん（左）

民が参加者に飲料水や  
食べ物を振る舞った。  
「気を付けて行って  
らっしゃい」。九十キロ  
コースの最初の休憩場

撮影なども手伝った。  
郡山市逢瀬町の西荒  
井エイドステーション  
では、住民らが豚汁や

所となった猪苗代町の  
レイクサイド磐光前で  
は、古川憲雄さん（天毛  
川会津若松市）が飲料  
水などを提供した。  
サイクリングを趣味  
としているが、今回は  
参加者に猪苗代湖の魅  
力を満喫してもらおう  
と、裏方に徹した。四  
九号国道の中山峠の急  
坂を上り切った後に飲  
む水は、まさに「恵の  
一杯」。古川さんは「参  
加して良かったと思っ  
てもらえるよう、心を  
込めた」と話し、記念

おにぎりを用意し、参  
加者を迎えた。JA郡  
山市女性部河内支部は  
前日から準備し、約五  
百食分の豚汁を作っ  
た。お代わりを求める  
声が掛かり、支部長の  
伊東由乃さんは「まは  
「疲れた体を癒やして  
もらおうと県産野菜を  
たっぷり入れた。喜ん  
でもらえてうれしい」  
と笑顔を見せた。